

主 題：人となられた創造主

聖書箇所：ヘブル人への手紙 2章14-16節

今、アメリカのニューヨークにおいて、ある一つのビルボード、野外の大きな広告看板、ごらんになったことがあるかと思いますが、そこに貼り出された一つのメッセージが話題になっています。そこにはサンタクロースと十字架に架かったイエス・キリストの絵が描かれています。そしてそこにはこういうメッセージが書いてあるのです。「楽しみは残し、神話は捨てろ」と。このメッセージを伝えたい人々、その団体はアメリカの無神論者の団体ですが、彼らが伝えたいメッセージは「サンタクロースは残してイエス・キリストを捨てなさい」です。イエス・キリストは作り話なのだからということ。しかし、どんなに主イエスを否定しようと、主イエス・キリストが実在した歴史上の人物であることを私たちは知っています。だから、私たちはこうして彼の誕生を記念して祝うわけです。このような活動がアメリカでなされ、実際に、ニュースの中では多くの通行人がインタビューを受けて、どう思うかという感想を聞かれました。そこに登場した通行人の100%は「非常に憤慨している」というような感想を述べていました。それを聞いて少しは救われたような気がしました。

でもよく考えてみると、私たちの国はそのビルボードよりももうはるか昔にクリスマスからキリストを除いてしまっています。クリスマスというと、多くの人々はただパーティーをする時間であったりとか、お祝いをする何か楽しい時間であるように思っています。多くの人々がクリスマスの意義を知らないし、クリスマスをお祝いする本当の理由を知らないでいます。大変悲しいことです。

★ クリスマスに関してあなたが知らなければいけない三つのこと

きょう、私たちが一緒に見るヘブル人への手紙の著者はクリスマスの意義について私たちに教えてくれています。彼が私たちに教えようとするのは、主イエス・キリストの誕生が私たちににとってどうして重要なのか、どうしてそれがあなたにとって意義深いものなのかということです。きょう、私たちが一緒に見て行く聖書の箇所はヘブル書2：14-16のみことばです。このみことばを通して、クリスマスに関して知らなければならぬ三つのことをご一緒に見て行きます。このクリスマスに関して、あなたが知らなければならぬ三つのことです。

A. 主イエスの受肉

1. 人間となる 14a 節

一つ目に、あなたが知らなければいけないことは「神が人となった」ということです。主イエス・キリストの受肉、人となったということです。14節の初めを見るとこのように書かれています。「そこで、子たちはみな血と肉とを持っているので」、つまり、我々人間は、からだ、肉体を持っているということです。「主もまた同じように、これらのものをお持ちになりました。」と、著者はこのように私たちに教えます。つまり、彼が言いたいことは、自然界も、そして、あなたも私もこのすべてを造られた創造主なる神が、人間となったということです。人間が血と肉を持っているゆえに、肉体を持っているゆえに、この創造主なる神が同じように肉体をお持ちになったということをまずこのみことばが教えます。ただ、そのように記されてはいるのですが、私たちが気づかなければいけないことがここに記されています。というのは14節の初めに「子たちはみな」と、すなわち、人間はみんな「血と肉とを持っている」とあります。そして、その後「主もまた同じように、これらのものをお持ちにな」ったと、確かに、日本語を見ると「持つ」と同じことばが記されていますが、実は、違うギリシャ語が使われているのです。

その理由を説明します。最初に使っていることば、つまり、私たち「子たち」が「血と肉」を「持っている」、人間が肉体を「持っている」というのは、これは「みな共通したもの、共有しているもの、その仲間になる」という意味を持ったことばです。だから、どこの国に行こうと私たちはみな同じようなものを持っているわけです。そのことを言うわけです。ところが、この二つ目の「持っている」という動詞はそれとは違うことばで、私たちに大切なことを教えてくれます。今から三つ挙げます。

1) 主は神であった

一つ目は、この肉体を持ったお方、イエス・キリストは神であるということを使うのです。なぜ、そのように言えるのでしょうか？実は、この「お持ちになった」と記されていることばは、「本来は自分自身のものではない、自分自身の性質に関連していないものを持つ」という意味です。何を言いたかったかというところのことばです。聖書を見た時に、創造主なる神は肉体を持っていないのです。神は霊であると言います。ですから、その霊である神が肉体を持った、すなわち、本質的に自分と同じものでない霊である神が、全く異なった人間と同じ肉体を持ったということです。ですから、ただ、私たちと同じ

じように肉体を持ったということではないのです。元々、このお方は肉体を持っていなかったのです。永遠から永遠に霊として存在なさった神が肉体を持って人となられたと言うのです。そういうことばを使っているのです。

2) 主の選択であった

二つ目に、このことばの時制を見た時に次のようなことが分かるのです。それはこの「人となる」という選択は主ご自身の選択だったということです。霊として永遠から永遠に存在なさっておられる神が、ある定められた時に、しかも、ご自分の意志をもって人になろうとなさったのです。そのことをこの二つ目の「持つ」ということばの時制が明らかにしています。

私たちには選択はありませんでした。我々は人間として肉体を持って生れて来たのです。しかし、このイエスを見た時に、この方はある時にご自分の意志でもって、私たちと同じように肉体を持とうと決心されてそのようになったということを言っているのです。ヨハネ 1 : 14 に「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。」と書かれています。ヨハネ 1 : 1 には「初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。」とあります。神であることばが人間となったと、ヨハネの 1 章は私たちに教えてくれます。このヘブル書の著者はそのことを言っているのです。真の神が私たちと同じように肉体を持ってこの世に来られたのだと。

3) 主には罪がなかった

もう一つ付け加えなければいけないことがあります。確かに、私たちと同じように肉体を持ったということになると、彼は我々と同じように罪の性質を保持していたのかということになるのか？決して、そうではないということです。皆さん、今見ているヘブル書の 4 : 15 のみことばは「**私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯されませんでした、すべての点で、私たちと同じように、試みに会われたのです。**」となっています。主イエス・キリストはあなたや私が経験するさまざまな試みを経験なさった、いろんな試練を経験された、いろんな悲しみや苦しみや辛さを経験してきたわけです。でも、イエスと私たちが違うところは何か？彼の口からは悪いことばは一切出て来なかったということです。彼の心の中には私たちが持つような汚れた思いがなかったということです。彼はその心においても、その行動においても、そのことばにおいても、すべての点で神の前に正しく、そして、すべての点で聖かったのです。

ですから、確かに、イエス・キリストを見た時に人々は私たちと同じ人間だと思いました。どこから見ても人間でした。同じ肉体を持っていたのです。しかし、このお方はすべてをお造りになった神であり、その神がご自分の定めた時に、肉体を持って人としてこの世に来てくださったのです。そのことをこのヘブル書の著者は私たちに最初に教えるのです。神が人となったと。

2. 受肉の目的

では、なぜ神はそのようなことをなさったのでしょうか？なぜ、神が人間となられたのでしょうか？もう一度きょうのテキストを見ると、14 節に「これは、その死によって、」とあります。つまり、主イエス・キリストが肉体をもってこの世にお見えになったのは、神が人となられた目的とは「死めため」だということです。そのために主イエス・キリストは人となってこの世に来られたのだと言うのです。

皆さん、覚えていますか？イエスと弟子たちがピリポ・カイザリヤというエルサレムからかなり北の方ですが、そこに行った時に「人々は人の子をだれだと言っていますか。」という質問をなさいました。そのときに弟子たちはいろいろと答えました。その中でペテロが次のようなことを言いました。「あなたは、生ける神の御子キリストです。」(マタイ 16 : 16) と。そのことがあってからイエスが弟子たちの前で話されたことは何でしたか？「イエス・キリストは、ご自分がエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、そして三日目によみがえらなければならないことを弟子たちに示し始められた。」と、つまり、ご自分がだれであるかを明らかにされた後、イエス・キリストが弟子たちにお話になったのは、この後、わたしはエルサレムに行って殺されるということです。まだ、そのような兆候のなかった時から、イエス・キリストは何のためにこの世にお見えになったのか、つまり、十字架にかかって死めためにこの世に来たということをお弟子たちの前で明らかにしておられたのです。

彼はこの世に来られた目的を知っていました。主イエス・キリストは死めためにこの世に来られたのです。そして、ご存じのように十字架に架かって死なれました。そのことを多くの人々が目撃しました。イエス・キリストは言われていたように、十字架に架かって、そこで亡くなられました。ちょうど、主イエス・キリストがその後よみがえり、天に凱旋した後ペンテコステが起こりました。聖霊なる神が信じる者たちの上に宿るという出来事があった時に、ペテロがこのようなメッセージを語っています。「あなたがたは、神の定めた計画と神の予知とによって引き渡されたこの方を、不法な者の手によって十字架につけて殺しました。」(使徒 2 : 23)。ちょっと皆さんに考えていただきたいのは、イエス・キリストが十字架で亡くなってさほど日が経っていません。ペテロというひとりの弟子が人々の前で語るのです。イエス・キリス

トは十字架で死んだ、あなたたちが十字架に架けて殺したのだと。その出来事を読んでいくと、それに対してだれひとり反論していないのです。もし、そのことが作り話であったなら、人々はそのペテロのメッセージに対して反論したはずです。我々はエルサレムにいたし、その場所にいたけれども、そんなところでイエス・キリストは十字架になど架かってないと言うでしょう。でも、だれひとり反論した人はいなかったのです。なぜなら、そのことは人々の周知の出来事だったからです。みな見ていたのです。みな聞いていたのです。イエス・キリストが十字架で死んだことを。

まず、このクリスマスに関して私たちが覚えなれないといけなことは「神が人となった」という出来事です。この真理をまず私たちは覚えなければいけません。イエス・キリストがこの世に来られたのは死ぬためであったと。

B. 主イエスの死

1. 死の理由

二つ目に、私たちがこのクリスマスに関して知っておきたいことは、実は、すべての創造主なる神は死なれたのですが、その死は私たちのためであったということです。神はあなたのために十字架で死なれたのです。先ほども見たように、ヘブル2：14に「その死によって、」と記されています。イエスは何のために死んだのか？聖書のことばを見るとその理由は明確です。例えば、Iコリント15：3を見るとこのように記されています。「私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。」と。パウロという人物があなたたちに一番大切なこととして伝えたいのはこのメッセージだ、実は、私も信じているそのメッセージだと言うのです。それは「キリストは、聖書の示すとおり、私たちの罪のために死なれたこと、」と、パウロはこうしてイエス・キリストのあの十字架の死が彼自身の罪のゆえではなく、あなたや私のためであった、身代わりであったということを言います。

また、IIコリント5：15でも、パウロはイエスの十字架について「キリストがすべての人のために死なれたのは、」と教えます。ですから、聖書のことばが私たちに教えてくれることは、イエス・キリストが十字架で処刑されたのは、彼自身が犯した罪のせいではなかったということです。だから、イエス・キリストを調べた裁判官が「この人には罪はない」と言ったのはその通りです。今見て来たように、神が人となられたのです。罪のないお方だったのです。その人生を振り返る時に、すべての点で罪の汚れは一点もなかった。しかし、この方は自ら進んで十字架に架かって行ったのです。この方には罪はなかったのです。

でも、問題はこの方ではなくてあなたや私なのです。私たちのうちに、あなたのうちに罪があるから、イエス・キリストはあなたの身代わりとなってあの十字架に架かってくださったのです。もう一箇所、Iペテロ3：18でも「キリストも一度罪のために死なれました。正しい方が悪い人々の身代わりとなったのです。」と言っています。今、ペテロのことばを聞かれましたか？正しい方が、罪のないお方が、罪のあるあなたや私、悪い人たちの身代わりとなったと言うのです。ですから、イエス・キリストは確かに十字架で死にました。でも、なぜ彼が十字架で死んだのか？彼の死の理由はあなたの身代わりであったということです。創造主なる神を信じることもなく、創造主なる神を愛することもなく、好き勝手に生きて神に背いているあなたの罪の身代わりとなって、神ご自身が十字架で死んでくださったのです。

2. 死の目的

きょうのテキストにもう一度戻っていただくと、このヘブル書の著者は私たちに、イエス・キリストの死の目的、何のために彼が死なれたのかを記してくれています。彼はあなたのために死んだ。では、なぜあなたのために死んだのでしょうか？14節からご覧ください。主イエス・キリストの二つの死の目的を見ることが出来ます。一つは、サタンを滅ぼすためであり、もう一つは、死の恐怖の奴隷からあなたを解放するためです。この二つのことがここに記されています。

1) サタンを滅ぼすため 14-16節

(1) サタン（悪魔）とは 14節

14節後半-15節「これは、その死によって、悪魔という、死の力を持つ者を滅ぼし、一生涯死の恐怖につながれて奴隷となっていた人々を解放してくださるためでした。」この目的のためにイエスはあなたの身代わりとして十字架で死んだと言っているわけです。サタンを滅ぼすためである。ここには「悪魔という」と書かれています。悪魔、サタンです。どんな存在なのでしょう？

・「死の力を持つ者」

みことばが教えるようにこの悪魔は「死の力を持つ者」です。何を言っているのでしょうか？歴史を振り返ってみましょう。最初の人類のアダムとエバです。神はアダムとエバをお造りになって、彼らはエデンの園に住んでいました。そこでサタンは彼らを神の命令に逆らうように誘惑をしました。その結果、彼らは主の命令に逆らい、神の前に罪を犯しました。そして、その結果、主が約束なさったように彼らは死ぬものとなったのです。恐らく、その時にサタンは大いに勝ち誇ったことでしょう。なぜなら、ア

ダムとエバは神とともに永遠を生きることができたのです。でも、神の命令に逆らうことによって死が彼らのうちに入り、肉体的に死ぬものとなり、同時に、罪ゆえに永遠の死に向かう存在として彼らは神ののろいを受けたのです。元々、アダムとエバは永遠に死ぬことはなかったのです。死は彼らと全く無縁のものだったのです。しかし、彼らが神に逆らうことになって死は現実の問題となりました。肉体的に日々衰えて行くのです。そして、肉体的な死を迎えた後には創造主なる神の前に立ち、その創造主なる神からの審判を受けなければいけないのです。創造主なる神はあなたのすべての罪をご存じであり、そして、あなたを公平に正しくさばかれます。だれひとりとしてこの方のさばきに対して口を挟むことができません。なぜなら、神はあなたが行なったことだけでなく、あなたが口に出したことだけでなく、あなたが想像したことだけでもなく、あなたの心に浮かんだすべての罪をご存じであり、その罪に対してさばきをお与えになるからです。

悲しいことに、この罪以降、死という問題が自分たちの問題となり、そして、この悲劇はこのふたりに留まることなくすべての人間が受け継ぎました。だから、私たちも生まれながらに肉体的に死ぬ者、そして同時に、神の永遠のさばきに至る者として生まれて来るのです。悲しいことに、我々は生まれながらに罪を犯す者です。生まれながらに創造主なる神に逆らう者です。ですから、肉体的に死ぬ者として、そして、永遠の神のさばきを受ける者として我々はこの世に生まれたのです。悲しいことです。ですから、著者は言うのです。悪魔、サタンは死の力を持っていると。次のみことばはこのように続きます。「一生涯死の恐怖につながれて奴隷となっていた」と。後で詳しい説明をしますが、サタンは死の力を持っているものであり、私たちはその死に対して奴隷となっているがゆえに、その恐怖から逃れることができない者であると言うのです。このことはもう少し後で見に行きます。

・「神の敵」

サタンとは死の力を持つ者であり、そして同時に、このサタン、悪魔は「神の敵」です。ですから、イエスを信じるあなたの敵でもあります。ペテロはⅠペテロ5：8で「身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししのように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。」と言います。「あなたがたの敵である」と書かれています。ですから、この敵であるサタンはクリスチャンであるあなたに対して、あなたが神に逆らうようにと働き続けて行くのです。誘惑し続けて行くのです。神の計画を台無しにしようとします。神に逆らい続けています。このような存在がサタンです。

(2) 滅ぼすためとは

このヘブル書を見た時に、イエス・キリストがこの世にお見えになり、イエス・キリストが十字架に架かって死んでくださった、それはサタンを滅ぼすためであり、このような死の力を持つサタンを滅ぼすためだと書かれています。この「滅ぼす」というのは、最終的に地獄に彼を投げ入れることで、それは後に起こります。確かに、黙示録20：10を見ると。神の警告の中にこういうものがあります。「彼らを感じた悪魔は火と硫黄との池に投げ込まれた。そこは獣も、にせ預言者もいる所で、彼らは永遠に昼も夜も苦しみを受ける。」と。ですから、神は後に人々を感じた、神の敵であり、私たち信仰者の敵であるサタンを永遠に昼も夜も苦しむその地獄に投げ入れます。そして、サタンは永遠に苦しみ続けます。サタンに従ったすべての者は同じ運命をたどります。でも、ここで言っている「滅ぼす」というのはそのことではないのです。ここで言われている「滅ぼす」ということばの意味は「効果のない、無能にする、何かを無効にする、廃止する、終わりにする」といった意味を持ったことばです。つまり、サタンの最高の武器である死を滅ぼし、死を効果のないものにしたということです。だから、私たちクリスチャンは死を恐れなくなったのです。そのことがこの後続いています。二つ目を見てください。

2) 死の恐怖の奴隷からの解放

15節に「一生涯死の恐怖につながれて奴隷となっていた人々を解放して下さるためでした。」とあります。

(1) 人とは、「一生涯死の恐怖につながれて奴隷となっている者」 15節

著者は私たちに人間とはどういうものかの説明をしてくれています。人というのは「一生涯死の恐怖につながれているもの、奴隷となっているもの」だと言います。先ほどから見て来ているように、私たち人間はこの肉体の死から逃れることはできません。どんなに節制をしても、どんなに健康食を食べても、私たちは150歳までも200歳までも生きません。分かっていることは、確実に、死が近づいているという現実です。そして、もう一つ覚えておかなければいけないことは、私たちはこの肉体的な死から逃れられないだけでなく、霊的な死からも逃れることはできないということです。霊的に死んでいる、つまり、神から引き離されているがゆえに私たちは神のさばきを受けなければいけないのです。肉体的に死んでそれで終わるのではないのです。その後にはさばきが待っているのです。なぜかと言うと、私たちはこの地上にいて創造主なる神に背いて逆らって生きて来ているからです。

サタンが望むことは私たちがみな地獄に行くことです。彼はさまざまな方法を用いて皆さんをだまし続けて行きます。死んだら終わりだ、それでみんな無くなってしまおうのだと。また、ひよっとしたら天

国を約束してくれるかもしれませんが。でも、その教えが本当かどうかをみなに考えさせないのです。ある時、私は仏教のお坊さんの話を聞きました。その話はとてもすばらしかったです。こうすれば罪が赦されて極楽に行けると教えてくれるのです。なるほどと思いました。そこで私は質問をしました。「申し訳ないのですが教えてくださいませんか？罪が赦されるとおっしゃいましたが、一体その根拠は何なのですか？何を根拠に罪が赦されると断言できるのですか？」と。答えはなかったです。天国に行けると言ったがその保証は何なのか？本当に天国に行けるとい保証はどこにあるのか？答えはなかったのです。残念ながら、私たちはそこまで考えません。話を聞いて「いいお話」ならそのように信じてしまいます。サタンは巧妙に偽りの話を用いて私たちを間違った方向に導こうとします。なぜなら、彼自身が分かっていることは、自分自身が地獄に行くことです。そして、彼はすべての人々を惑わして自分と運命をともにさせようとするのです。

しかし、既にイエス・キリストの救いに与った私たちはサタンと運命をともにしません。私たちはそこから救い出されたのです。そうすると、サタンはどうするか？我々を惑わして、私たちが希望を持って生きないように、その希望に、神に感謝を持って生きないように、いろいろな形で惑わして行くのです。先ほど話したように、私たちが何かを信じるのなら、それが本当かどうかを調べなければいけません。天国に行けるといふのなら本当にいけるのかどうか、罪が赦されるといふのなら、本当に赦されるのかどうかです。人々は聞くかもしれませんが。では、なぜあなたはそれが真実だと言い切れるのですか？と。はっきりと言えます。イエス・キリストの誕生があるのです。イエス・キリストの十字架があるのです。イエス・キリストの復活があるからです。この歴史上の事実が、私たちにこの方こそが私たちをこの死の力から解放してくださる方だと明らかにするのです。イエス・キリストがこの世に来られたのは、この死の力を持つサタンを滅ぼすためでした。私たちはこの死に対してかつては恐れを抱いていました。死の恐怖の奴隷から解放されるように望みました。でも残念ながら、私たちにはそのことができなかつた。だから、私たちは死について考えないようにしようとしました。今が楽しければいいし、今を楽しもうと。それから先のことはその時考えればいいと。しかし、段々歳を重ねるにつれて死が現実のものになって来ます。そうすると、みな不安になって来るのです。

(2) 奴隷から解放して下さった 15節

しかし、私たちイエス・キリストを信じる者たちは違うのです。私たちはどちらかという、死を待望している者です。それは今が苦しくてたまらないから早く逃れたいという意味ではありません。もし、そうであれば私たちの考えが間違っているわけですが、私たちは今生かされていることを感謝し、こうして贖われたこと、救われたことを感謝して、それで死を待っているということは、その時に、私たちを愛して私たちのためにいのちを捨てて下さったイエスにお会いできるからです。だから、その日を待っているのです。だからクリスチャンは、今みことばが教えたように、イエスによって死の力を持っているサタンが滅ぼされたことによって、死の恐怖につながれて奴隷となっていたところから解放されたのです。かつては、死について話したくはないし、どんなに努力して頑張っても心を入れ替えても、私たちはこの死という現実に対してどうすることもできなかったのです。そしてその後、死んだ後、神から受けるさばきに対して私たちはそれから逃れるすべがなかったのです。しかし、イエス・キリストがこの世にお見えになり、十字架で死んでよみがえられることによって解決の道が示されたのです。私たちは肉体の死に関してもそれで終わりではないのです。その後、私たちは主から栄光のからだをいただいて、この方とともに永遠を生きるという確信を得ています。聖書がそのように教えているからです。

そして同時に、イエス・キリストの前に立つ時に、私たちの罪がさばかれることはないのです。なぜなら、私の身代わりとなってイエスが私の受けるべきさばきを受けて下さったからです。だから、私たちはどうしても自分の力で解決できなかったこの死という問題に対して、それを解決されたイエス・キリストを信じ、そして、そのイエス・キリストの勝利によって死に対して勝利を持つ者としてきょうを生きることが出来る者へと変えられたのです。

このヘブル書の著者は私たちに教えてくれます。主イエス・キリストの死はあなたのためであったと。あなたを肉体の死からも、そして、その後にあるさばきからも救い出してくださいました。恐らく、皆さんもこのみことばをよくご存じで、このみことばによって励ましを得たことでしょう。Iコリント15:55「死よ。おまえの勝利はどこにあるのか。死よ。おまえのとげはどこにあるのか。」、パウロはすばらしいことを語っています。なぜなら、かつては、死は私たちを恐怖に陥れました。先ほどから話しているように、私たちは死に対して無力でいつも白旗を振らなければいけなかつた。肉体的な死が近づいて来ます。これに対して私たちはどうすることもできなかった。罪を犯して歩んで来た私たちが受ける永遠のさばきに対して私たちはどうすることもできなかった。その永遠のさばきをただ待つしかなかつたのです。何の特効薬もなく、ただ、自分の死を待つ病人のようにどうすることもできない。もう手を施すことはできません、何もすることはできません。ただ死を待つしかない。そのような状態でいた私たちです。そん

な私たちを神は救ってくださったのです。私たちをその罪から救い出してくださり、そして、私たちに永遠の希望をくださった。I コリント 15 : 57にも「しかし、神に感謝すべきです。神は、私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えてくださいました。」とあります。

だから、私たちはイエス・キリストが言われたように声を大にしてこう言うのです。「わたしを信じる者は、死んでも生きるのです」(ヨハネ 11 : 25) と。私の肉体は滅びるかもしれない。しかし、私は死んでも生きる、主イエス・キリストとともに永遠を生きるのです。イエスはこのように言われました。ヨハネ 14 : 19「わたしが生きるので、あなたがたも生きるからです。」と。主イエス・キリストが今もあの墓の中に留まっているなら、私たちに永遠の希望などありません。しかし、イエス・キリストがその墓からよみがえって来たことによって、イエスがよみがえったように、私も彼とともによみがえるという希望を持って生きることができるのです。

クリスチャンの皆さん、このような祝福をあなたはいただいたのです。主イエス・キリストはあなたの身代わりとなって、あなたのすべての罪を負って十字架であなたに代わってあなたのさばきを受けてくださった。そのために神である方が肉体をもって来られたのです。そして、あなたのすべての罪をその身に負って、十字架であなたのさばきを受けてくださった。そして、三日後によみがえることによって、この方こそが救い主であり、この方こそが人類の希望であることを明らかにしてくださったのです。ゆえに、イエス・キリストを信じた私たちはこの希望を持ってきょうを生きることができる者に生まれ変わったのです。このヘブル書の著者は私たちに教えます。イエス・キリストは私たちと同じ肉体を持ってこの世に来られた。しかし、彼のうちには全く罪がなかった。なぜなら、罪を犯しているあなたの身代わりとなるためだからです。罪のない方が罪あるあなたの身代わりとなられたのです。そこで、罪のない神があなたの代わりとなって、あなたの身代わり十字架で死んでくださったのです。そして、その十字架によって、その復活によって、主イエス・キリストは悪魔の持っている死の力を滅ぼして、一生涯死の恐怖につながれて、死を恐れていたあなたをその恐怖からその奴隷から解放して、希望を持って生きる者へと生まれ変わらせてくださったのです。このためにイエス・キリストが来てくださった。

C. 主イエスは救い主：人類にとって唯一の救い主 16節

もう一つ、皆さんと見て行きたいのは16節です。私たちは神が人となられたということを見て来ました。この神はあなたのために死んでくださったと今見て来ました。三つ目に私たちが見るのは、この方はあなたの救い主だということです。16節の後半にこのように記されています。「主は御使いたちを助けるのではなく、確かに、アブラハムの子孫を助けてくださるのです。」と。ここで言われていることは、天使か人間かということです。というのは、天使の中にもサタンと同じように、罪を犯して神に逆らった悪霊たちが無数にいます。デーモンたちです。神は彼らに救いの手を差し伸べておられるでしょうか？いいえ、彼らには救いの手を差し伸べていません。救いの手を差し伸べてくださったのは、あなたや私たち人間です。罪人である私たちに神はその救いの御手を差し伸べてくださったと言います。ですから、「アブラハムの子孫」、つまり、人間を助けてくれるのです。

1. 助けてくださる

「助けてくださる」ということばも非常におもしろいことばが使われています。一つの意味は「手で捕える」です。ちょうど、マタイ 14 章の中で、湖の上を歩いていたイエス・キリストを見たペテロは自分も歩きたいと湖に出て行きました。驚くべきことに、彼はその湖の上を歩いたのです。ところが、風を見て怖くなった彼はその後沈みかけます。そこでペテロは叫び出します。マタイの福音書 14 : 30-31 を見てください。「ところが、風を見て、こわくなり、沈みかけたので叫び出し、「主よ。助けてください」と言った。そこで、イエスはすぐに手を伸ばして、彼をつかんで言われた。「信仰の薄い人だな。なぜ疑うのか。」とあります。この「つかんだ」ということばが今ここで使われている、「助けてくださる」と同じことばなのです。

ということは、主イエス・キリストはあなたを助け続けてくださるということです。感謝なことに、私たちの日々の歩みにおいて、いろんな問題があったり、いろんな辛いことがあったり悲しいことがあります。感謝なことは、主はいつもあなたとともにいてくださり、あなたをつかんでくださる、あなたを助けてくださると言うのです。だから、私たちはすべてのことをこの方のもとに持って行くことができます。私たちはいつも「神さま、助けてください！」と言えるのです。

2. 救ってくださる

同時に、この「助ける」ということばは「捕えられてその危険から救い出す、そこから助け出す」という意味です。まさに、神は私たちが向かっていた危険から、永遠の地獄から私たちを救い出してくださいました。

きょう私たちが見て来たことを思い出してください。創造主なる神が人間となってくださった。なぜ、そのようなことをなさったのでしょうか？それはあなたを罪から、そして、永遠のさばき、地獄から救い

出すためです。あなたをその地獄から救い出すために、死から救い出すために、神は人間のからだをもってこの世にお生まれになったのです。霊である神は十字架に架かることができないから肉体をもってこの世に来てくださり、そして、罪のない方があの十字架に自ら進んで架かって行きました。彼には罪がなかった。でも、あなたのすべての罪を彼は負って身代わりとして死んでくださったのです。そして、その方が敢然と死からよみがえることによって、この方こそが真の神であり、救い主であることを証明してくれたのです。私たちはただのおとぎ話に立っているのではないのです。だれかが作り出した話に立っているのではないのです。歴史的な証拠に基づいて私たちは生きています。十字架に架かられたイエス・キリスト、そして、よみがえったイエス・キリスト、この復活を通してこの方が真の神であり、救い主であることを証明してくださった。そのイエス・キリストを信じる者たちなのです。そして、そのイエスを信じる者たちに、神はこの救いを約束してくださったのです。そのために主は人間となって来てくださった。だから、私たちはクリスマス祝うのです。だから、私たちはここまで私たちを愛してくださった神に感謝するのです。

確かに、多くの人たちはなぜイエス・キリストがお生まれになったのか知りません。なぜ、イエス・キリストがわざわざこの世に来られたのか知りません。でも、あなたは知っています。あなたはそれを知っています。クリスチャンの皆さん、クリスマスだけではなく、毎日の生活において感謝することです。そして、私たちには大きな務めがあります。私たちの周りにはそのことを知らない人たちがたくさんいるのです。サタンのうそによって惑わされている人たちがたくさんいるのです。私たちは彼らに言わなければいけません。イエス・キリストの降誕はあなたのためだと。イエス・キリストの十字架はあなたの身代わりだと。そして、イエス・キリストの復活はあなたに約束された救いを与えるためだと。このイエス・キリストを信じてこの救いに与りなさいと。そのメッセージを私たちは語ることができます。どうぞ、そのメッセージを語る人になることをきょう改めて決心して、この場を出て行ってください。そのような証し人としてあなたが主に仕えて行くために、神はこのようすばらしい救いをあなたに与えてくださったんです。この救いをいただき、この救いを語る者として、きょう生きてください。心からそのことをお勧めします。

《考えましょう》

1. 主イエスが人となられた目的を教えてください。
2. 「悪魔という、死に力を持つ者を滅ぼし」とは、どういう意味ですか？
3. どうして主イエスだけが、救い主なのでしょう？その理由を挙げてください。